

白川郷・五箇山号

広報誌タイトル世界遺産シリーズ

第217号

発行日：令和4年2月1日

発行者：医療法人 博愛会

福田脳神経外科病院 新聞部

診察室から コロナ禍と脳卒中

院長 福田 雄高

新年を迎えましたが、依然コロナは猛威をふるい、終わりのなき旅の様相です。だいたいマスク生活にも慣れましたが、旅行や外食をしていた日々が懐かしく感じます。

このコロナ禍と脳卒中（いわゆる脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）との関連はいかがでしょうか。コロナウィルスに罹患すると、重症になった場合は、血栓症を来し脳梗塞のリスクになり得るものとも考えます。

現状では但し、感染者は多いも、重症者は比較的少なく、コロナ禍に伴い脳卒中発症者の数が増加しているものではなさそうです。逆に、社会の活動性が低下している時期は、不思議に脳卒中の発症は、特に重症発症は少ない様に感じます。

但し、実際に脳卒中の発症が少なくなったかと考えると、否、そうでもない様な印象もあります。コロナ禍で自粛生活に至ると、食生活は変化し、運動不足なども認めていないでしょうか？外出を控えるあまり、病院にかからない、医療機関への受診を控えたり、検診を中止したりと、血圧高値、糖高値、脂質異常などをおざなりにしていることもあるかもしれません。不摂生が蓄積して、自粛が緩くなった、ふとしたタイミングでの脳卒中発症は多くなっている様な印象があります。

脳卒中は、出血、くも膜下出血、梗塞と病気によって違いはありますが、それでも主に、高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙、肥満などが代表的な危険因子です。日々の食事に注意し、運動をこころがけ、生活習慣の管理にきがけるとともに、服薬加療が必要な方は、お薬内服をおざなりにしない様に十分注意する必要があるものと考えます。

今後発症し得る脳卒中を予防する為には、自粛期間もできる範囲で、運動、食事などには注意して生活していくことが非常に重要でしょう。



どこかの海と山の景色

"No llores porque ya se terminó, sonríe porque sucedió"

泣かないで、もう終わったんだから。笑おう、始まったんだから。

Gabriel García Márquez